

《コーディネーター 森口健司》

このフォーラムは、大人の全体学習です。自分の言葉で自分自身を語っていく場面が毎年繰り広げられてきました。「こんなことが実現するのか」ということを毎年この時期に感じてきました。今日もずっとお世話になっている仲間3人がパネリストとして語ってくれます。

ずっとつながってきた仲間で、最初に語ってもらう中野伸二さんは中学1年の時に板野中学校で担任をしています。その中学1年の時に部落問題を語った場面が、今も鮮やかによみがえってきます。今日の冒頭、オープニングの映像は、彼が作成したものです。今朝早くの修正版が届き、最後に、親友(心友)の託也君の家族と、伸二君のご両親の画像が追加されました。

(じっくりと)この会場に、彼のお父さんお母さんにおいでいただいています。おばあちゃんも一緒に来させたいということでお写真(遺影)を持って来られています。

中野さんのご家族と出会ったのは、1994年4月の家庭訪問でした。その後彼と取り組んできた語り合いの人権学習は、私の人生に大きな大きなよろこびが広がっていきました。

中野さん、その後に(隣の吉成さんと確認するような仕草で)柳本さん、私はいつも吉成先生から「チェリーさん」と聞いているんですが、(いっぱい笑顔で)今日も「チェリーさん」と呼んでかまいませんか？(柳本さんから笑顔で「はい」の返事がある)

チェリーさんに語ってもらって吉成さんにつないでいきたいと思います。それでは、中野伸二さん、よろしくお願いします。はい、拍手をしましょうか。(拍手)

《パネリスト 中野伸二》

自己紹介

(元気よく)皆さん、こんにちは。中野伸二です。まず、簡単に自己紹介をさせていただきます。さっき、オープニングの動画で中学校時代の映像が出ていたんですけど、これが僕の30年前の映像です。今、43歳になります。結婚して女の子が2人います。去年もこの人権フォーラムで前に立って話をさせていただきました。同じような話にはなるかと思うんですが、(去年の長くなった語りを振り返りながら、少し照れくさそうに)今日は早く終わるようにするので聞いてください。

娘たちへの思い

今日の僕のテーマは、僕は部落出身で、簡単に説明すると娘が小学校6年生と3年生。6年生の娘が4年生の時に、「人権を語り合う中学生交流集会」に連れて行って、僕が発表した時に、彼女に部落出身であるということを伝えました。あまりピンとは来てないと思うんですけど、今でもどうかなというところはあるけど、自分の立場を話をさせてもらいました。一緒に学習会に通っていた場所に行ったりとか、部落差別という言葉を教えたりとかしました。

そういう関わり方をする中で、この子をどうやって守るんだろうとか、(胸がいっぱいになり、自分の中で思いを整理しようとするかのように言葉を途切れさせながら)すみません、今も頭が混乱して…。彼女の顔が浮かびます。ちょっと、今日はグッと心に来るのが早いんですけど…。いろんな思いが詰まっています。

娘たちと神山高専に行って

それで、今、夏休み期間中で、今、この場に立たせてもらって、どういうふうな話をしようかなって考えることもありつつ娘たちと過ごし、一緒に川遊びとかも行ったりとか。(楽しそうに、その時を思い出しな

がら)今回も、神山町の方に今「神山高専」っていう所があつて。娘は突拍子もないことを言ったりする性格なんで、なんか秀でているかなと思って体験学習みたいなことで神山高専に連れて行きました。

そこでいろんな子たちと勉強をして、そこにいる学生さんたちにいろいろ教えてもらいました。親もその学生さんたちと会話をすることができました。全国から学生さんたちが集まっている場所です。1人の男の子は静岡県。1人の女の子は愛知県。ある男の子は群馬県。

(一言一言噛みしめるように)気になっているのは、「その子たちの故郷に対する思いってどんなのなんだろう」ということです。それがすごい気になって、「故郷ってみんなにとってどうなの？」という問いかけをしました。「来て3ヶ月しかたってなくてわからんですけど、ホームシックにはなっていないんですけど、友だちシックにはなっているような気がします」とか、故郷を離れることって、すごく勇気がいることっていうか…。

僕も今、板野町で生まれて徳島市内の方に行っています。まあ、故郷から少し離れています。故郷を思うこと。家族を思うこと。それで、関わり続けることっていうのが今の僕の最大の…、何だろう…、課題というか…。そういう思いで今生きています。

(胸がいっぱいになりながら、精いっぱいの思いを言葉に乗せて)子どもたちと関わっていく。子どもたちに差別っていけないんだよとか、差別しちゃダメなんだよとか、そういうのじゃあなくて、差別とどう向き合ってどう闘うか。…すごいそこを重視しとるんですけど、あまりにもこっちからグイグイ話し過ぎたら、年頃の女の子です。「ちょっと、パパ面倒くさくない？」みたいな反応もあります。

で、長女に関しては、今日も連れて来るつもりだったんですけど、都合で来れなくて。二女が今日1人で家にいるんですけど、「パパ行ってくるわ」って言ったら、「パパ、頑張ってね。行ってらっしゃい」。

扉あけたら「頑張ってね」、玄関開けたら「頑張ってね」と言うんですね。「何回言うんだ。俺は今日何を頑張りに行くんだ」って思いました。

オープニング動画に寄せる思い

正直、今もここに立っていて何を頑張るよるか。何を泣きながら話しているのか。…こういう思いがあつて、こうして涙流しながらも、悔しい思いをしながらも、それを伝える場所っていうのが、…肝心な人になかなか伝えれないというか、そういうせこさ、苦しみを抱えている状態です。でも、今日見る限り、たくさん知っている顔があります。いつも毎年支えられている顔です。すごい今日話しやすいです。

で、ちょっと話変わって、(あふれる思いを懸命に整理しながら)オープニング動画を最初に見てもらったんですけども、昨日、いろんな思いを寄せながら作って、曲を何にしようかなとか、どの写真使おうかなとか、いろいろ考えながら作っていました。

夜になって、子どもも寝て妻も寝て、なかなか妻の前で部落問題とかのこういうチラシとか、今はまだ言えません。多分、彼女は何も思っていないと思うんですけど。

寝静まった後に起きてきて、先日吉成先生が受賞された小説の記事(徳島新聞「部落解放文学賞受賞の記事」)を夜中に見て、「自分の中の人権学習って何なんだろうな」って考えた時に、やっぱり僕は部落問題なんですよ。他の差別もいっぱい勉強もするし、わかるし、それ違うなとか思うのはあるけど、やっぱり部落差別であつて、そこが核やし、やっぱり故郷やし、それで、今日の動画の最後を、普通に「この夏をみんな乗り越えましょう」みたいな文言にしていたんです。でも、やっぱり生まれを恥じない生き方、そういう生き方をどうにかして入れたかったっていうのがあつて、急遽夜中の2時頃くらいに森口先生に「夜中なんですけど、すみません。動画の差し替えをお願いします」と言って、朝早くに対応してくださいました。

家族の中の自分

～両親やばあちゃんへの思い～

なぜ僕が家族を重んじるか。同和地区を重んじるか。特に、今日紹介してもらったんやけど、父ちゃん母ちゃん、ばあちゃんが来てくれています。こんな父ちゃん母ちゃんです。ちょっと見てあげてください。(照れくさそうに)ちょっと立ってください。

(息子の声にスッと立ち上がる両親に会場から大きな拍手)もう70歳が来てるか手前かくらいの年齢です。家からだったら遠い距離で、この会場も新しくできて、どこが入り口かわからんというので、何回も鳴門市役所に電話したりとか、テスト的に来てみたりとかしたみたいです。それくらい、今も応援されています。今も子ども扱いされています。それがすごい幸せです。

～今の自分の家族の中で～

だから、そういうふうな生き方を僕も子どもたちにしてあげたいなというか、差別であっても、何か不自由なことがあったとしても、いつでも寄り添うというか、関わり続けるというか、そういう関係性を築けるような関わり方をつくっていききたいなと思います。

だから、乗り越えなあかん壁が滅茶苦茶あります。まあまあハードルも高いし、それこそ、学校関係とか、子どもの担任の先生とか、学校の先生とかとつながっていくのも、なんだかんだ言っているようでも結構ハードルが高いです。でも、関わっていくことで、なんか子どもにとってもいいのかなとか、いろんな人と話をしている姿を見せれて。そうしていくうちに、僕はいろんな人と繋がるのが好きなので、学校の子どもたちも、この子みんな救いたいなというか、繋がりたいとか、じゃあ、この子らが学校で楽しめるようなゲームをしようぜっていう計画を今立てています。

人権問題のことを落とし込むのかどうかはまたの問題なんですけど、いろんな、何にでも人権感覚というか、友だちを大事にする感覚というか、全ての行動に対して何でもそこに落とし込んでしまっって、それを見た友人が「息、詰まれへん？」って言いました。「わいはこういう生き方をしてきたし、こうやって繋がってきた人いっぱい居るし」っていうんですけど、「人権ねえ…」っていう言われ方をしたりされます。

まあ、それも妻の友だちのながれの人なんやけど、(楽しそうに)毎晩のようにオンラインゲームをしているんです。夜10時以降は大人の時間だということで、妻と並んでマイクをつけてオンラインゲームをしながらでも、「人権ねえ」っていう話をしたりとかして。人権感覚というのをわかって欲しい人に伝わらんというのが辛い。

わからん人には多分わからんと思うんですけど、それがなんか無力というか、1ヵ月くらい前まで、「関わり続けることで人とのつながりが増えていくけど、関わることで自分がいろんな意味でエネルギーになり過ぎて、本当に大事なものをなくしてしまひよらんか」ということも思ったりとか、家族との時間とか、関わり方とか。

「よし分かった。友だちとかと関わってきたこともすべてゼロにして、俺スマホも全部解約して、ゲームもやらんと、パソコンも全部売りさばいて生まれ変わって、ちょっとゼロになるわ」って、嫁さんに言ったら、「そういう所がアホなんよ」(隣にいるパネリストから笑いがこぼれる)極端で「ゼロか百」で生きている人間なので。

今日この場で話すっていうのも、父ちゃん母ちゃんが来るっていうのも胸がいっぱいになって、何を話をするかっていうのも整理がついてないんです。正直なところ。この関係性が今の僕の人権学習だと、僕は思

っているんです。

親友とのやり取りからこれからを思う

(力強く)今日始まる前に親友(心友)からこういうラインが来ました。これを読まさせていただいてまとめたいと思います。

「(オープニング動画)ツーショットで出させて頂きびっくり。映像を観させて頂いた時、伸ちゃんすごいな思いました。出会い、語り、学び、つながるよろこびや自身の可能性を広げることのできる人権学習に出会えたからこそ、私の歩んできた日常生活があるのだと、映像を見せて頂き改めて思いました。よろこびを感じる人権学習が、次の世代にもいろんな場面で広がるといいなあと思いました。農作業完了次第うかがわせていただきます。よろしくお願いします。」

そう言いながらさっきやって来ました。でも、彼がいるからこうやって話ができるし、もう30年前から付き合っている友だちです。僕は友だちに支えられながら、親にもこうやって見守られながら、こうやって死んだばあちゃんにも見守られながら、先生にも気にしてもらいながら、いろんな人に支えられているなと思います。(思いがあふれながら)それを1回ゼロにしようと思った自分が情けなくて、今からもこれからも、いろんな人とつながれることを遠慮せずどんどんどんどんやっていきたい。

そういうものを持っている姿を子どもたちにも見せて、こういうつながるって大事なんだよ。しんどいことを言える関係ってすごいんだよって思ってもらえるような付き合い方を自分の子どもとか、周りとか、これからの生きていくみんなに伝えていきたいなと思いました。あまりまとまっていないんですけど、ありがとうございました。(拍手)